

NPOと行政の協働事業自己チェックリスト集計表1(災害時における難病患者の行動・支援マニュアルの作成及び啓発事業)

| 所属 名前 | 健康福祉総務室 落合賢司 | 健康づくり室 藤田典子 | 地震対策室 大原祐一 | NPO室 明石須美子 |
|---|----------------------------------|----------------|---------------|--|
| 視点1 事業実施前に話し合いが十分になされましたか。 | | | | |
| 視点1-1 ニーズの反映 | ? | はい | はい | はい |
| 視点1-2 ニーズの共有 | ? | はい | はい | はい |
| 特記事項 | | | | 平成17年度から取り組む中で、ニーズと課題の共有は十分にできたと思う。 |
| 視点2 事業の目的や事業に関わる意義を確認出来ましたか。 | | | | |
| 視点2-1 事業の公共性と行政関与の妥当性 | | | | |
| 広く不特定多数の利益になりましたか。 | はい | はい | はい | はい |
| 地域課題の解決や社会変革に役立ちましたか。 | ? | ? | いいえ | はい |
| 視点2-2 協働の妥当性 | はい | はい | はい | はい |
| 特記事項 | | | | それぞれの専門分野を持ち寄ることで実現できた事業である。 |
| 視点3 それぞれの役割が明確に整理されましたか。 | | | | |
| 役割分担 | ? | はい | はい | はい |
| 責任分担 | ? | はい | はい | ? |
| 情報共有 | ? | はい | はい | はい |
| 問題発生時の対応 | ? | ? | はい | ? |
| 特記事項 | 予め可能な範囲で、行政と民間の役割分担を決めておくべきであった。 | | | 委託の関係に縛られたので、柔軟な対応が難しかった。 |
| 視点4 事業を計画的に進めて行くことが出来ましたか。 | | | | |
| 事業の目的 | はい | はい | はい | はい |
| 地域ビジョンと事業の方向性 | ? | はい | はい | いいえ |
| 実施計画と収支計画 | ? | ? | はい | いいえ |
| 実際にかかる費用分担と予算管 | ? | ? | ? | いいえ |
| スケジュール管理と進捗状況 | はい | いいえ | はい | はい |
| 事業の進捗を客観的に判断する具体的な成果指標 | いいえ | ? | ? | ? |
| 成果物の帰属 | はい | はい | ? | はい |
| 事業完了時期 | はい | はい | はい | ? |
| 事業終了後の方向性の共有 | はい | はい | はい | いいえ |
| 特記事項 | | | | 今年度の事業については方向性の共有はできていたが、途中で契約変更が生じるなど、実行面で認識の違いが明らかになる場面があった。また、今後の方向性については、行政とNPOが認識するそれぞれの役割に相違がみられた。 |
| 視点5 参加・参画の体制づくりはうまく進みましたか。 | | | | |
| 視点5-1 当事者性 | はい | ? | はい | はい |
| 視点5-2 対話(コミュニケーション) | はい | はい | はい | はい |
| 視点5-3 意思決定 | はい | はい | はい | はい |
| 視点5-4 事業実施体制 | | | | |
| 役割分担 | ? | はい | はい | はい |
| 責任分担 | ? | はい | はい | はい |
| 情報共有 | ? | はい | はい | はい |
| 問題発生時の体制 | ? | ? | はい | はい |
| 特記事項 | | | | 関わった主体が議論に参画し、MLによる話し合いをもとに事業を進めることができた。 |
| 視点6 事業実施段階で欠けていた視点や、今後必要とされる仕組み、制度等は何でしょうか。 | | | | |

| | | | | |
|--|--|------------------------|--|---|
| | <p>・行政と民間の役割分担を明確にしておくべきである。</p> <p>・行政から民間への業務委託契約で事業を実施したが、協働事業には馴染まないで、実行委員会等を設置する手法が本来ではないかを感じる。</p> | <p>・県内の患者団体の参加が必要。</p> | <p>メーリングリストによる情報交換は活発に行われていました。それぞれが、忌憚のない意見を言っていたと思います。</p> | <p>協働事業を委託契約で実施する場合に、「委託」という制約による様々な障害が明らかになった。協働事業をより効果的に実施するための行政の支出方法を検討する必要がある。</p> |
|--|--|------------------------|--|---|

NPOと行政の協働事業自己チェックリスト集計表2(災害時における難病患者の行動・支援マニュアルの作成及び啓発事業)

| 所属 名前 | 日本IDDNetwork 岩永幸三 | 三重県防災VC養成協議会 山本康史 | 災害ボランティアネットワーク鈴鹿 出丸朝代 |
|---|--|--|--|
| 視点1 事業実施前に話し合いが十分になされましたか。 | | | |
| 視点1-1 ニーズの反映 | はい | はい | はい |
| 視点1-2 ニーズの共有 | ? | はい | はい |
| 特記事項 | シンポジウムの参加費徴収については、時間切れで無料にせざるを得なかった。結果的に事前PRも遅れたと認識しています。 | 必要性については十分議論できたと感じています。 | |
| 視点2 事業の目的や事業に関わる意義を確認出来ましたか。 | | | |
| 視点2-1 事業の公共性と行政関与の妥当性 | | | |
| 広く不特定多数の利益になりましたか。 | はい | いいえ | はい |
| 地域課題の解決や社会変革に役立ちましたか。 | はい | はい | ? |
| 視点2-2 協働の妥当性 | はい | はい | はい |
| 特記事項 | NPO単独でやるよりははるかに効果的だったと思いますが、行政にはもっと積極的に、前向きにかかわって欲しかった。 | 2-2協働の妥当性については、協働でなければ為し得なかった成果を出せたと思う。(特に多様なステークホルダーの議論への参加については、協働の成果を遺憾なく出せた) 2-1不特定多数の利益という点では、IDDNetworkから他の難病への応用について、十分議論・実践できないまま事業が中断してしまったことが悔やまれる。 | |
| 視点3 それぞれの役割が明確に整理されましたか。 | | | |
| 役割分担 | はい | はい | はい |
| 責任分担 | ? | はい | はい |
| 情報共有 | はい | はい | はい |
| 問題発生時の対応 | ? | ? | はい |
| 特記事項 | MLで議論、情報共有できたことはよかった。 | 責任分担や問題発生時の体制という点について、事業中に大きな問題が生じなかったので検証できていないと思うが、契約書では、それぞれの責任において問題を発生させたときはそれぞれが責任を持つ、と明記されているので問題はないと感じている。 | |
| 視点4 事業を計画的に進めて行くことが出来ましたか。 | | | |
| 事業の目的 | はい | はい | はい |
| 地域ビジョンと事業の方向性 | ? | はい | ? |
| 実施計画と収支計画 | ? | はい | ? |
| 実際にかかる費用分担と予算管 | ? | はい | はい |
| スケジュール管理と進捗状況 | ? | いいえ | はい |
| 事業の進捗を客観的に判断する具体的な成果指標 | はい | いいえ | はい |
| 成果物の帰属 | はい | はい | はい |
| 事業完了時期 | はい | いいえ | はい |
| 事業終了後の方向性の共有 | いいえ | はい | いいえ |
| 特記事項 | 19年度までの予定が18年度で打ち切られてしまったという感が残りました。なお、この視点4は全般的に質問の意味がよくわかりませんので、的外れな回答になっているかもしれません。 | いいえ、にした点は、当初3年計画であったものについて、3年目の事業計画・予算策定について、十分に相談・共有できなかったため。プロジェクトの意見としては、事業推進の中で、3年目に他疾患への応用を行うには成果が不十分だと感じられる結果を得られたので、もう一年事業の延長を行いたいと考えたが、その思いを伝える以前に事業内容・予算策定が行われており、一切修正の余地を得られなかったため、以降の協働事業継続を断念したから。 | 個人マニュアルは多様な主体の参画で精度の高いものとなった。シンポジウム開催にあたっては行政の施設や備品、会場設営の人手など強力な支援が得られた。立場の違う多様な主体の参加で広範な情報と判断基準を得ることができた。 |
| 視点5 参加・参画の体制づくりはうまく進みましたか。 | | | |
| 視点5-1 当事者性 | ? | はい | はい |
| 視点5-2 対話(コミュニケーション) | はい | はい | はい |
| 視点5-3 意思決定 | いいえ | はい | はい |
| 視点5-4 事業実施体制 | | | |
| 役割分担 | はい | はい | いいえ |
| 責任分担 | ? | はい | いいえ |
| 情報共有 | はい | はい | はい |
| 問題発生時の体制 | ? | ? | はい |
| 特記事項 | NPO側は常勤スタッフが不在であり、今後の協働推進のためには体制整備が必要。県からの関係者への呼びかけには感謝しています。 | 視点3と同様、大きな問題は発生しませんでしたので問題発生時の体制については? 事業継続については断念しましたが、その経過での話し合いの意志決定は互いに尊重したものだと思っておりますので、「はい」としました。 | 行政に協働の視点がなかったことからNPOの期待が過度になった。 |
| 視点6 事業実施段階で欠けていた視点や、今後必要とされる仕組み、制度等は何でしょうか。 | | | |

| | | | |
|--|---|--|--|
| | <p>次年度に向けての話し合いが極めて不十分(打ち切られた感じ)です。イベントを無料しなければならない理由がわからないまま行政に押し切られた感じが残りました。</p> | <p>事業実施途中での当初計画の見直しを一切認めないという姿勢は、民間との協働という観点からいかなるものか？ 3カ年の事業計画を練った場合、中間総括や修正は、行政自身の自前事業でもごく通常行われていることだと思う。それが今回3年目の事業案・予算案策定についてあまりにも一方的に話し合いの余地無く決められてしまっていたのは、それまで協働の成果を十分に発揮できていただけに、とても残念である。</p> | <p>欠けていた視点 ・行政の協働意識 ・今後必要な仕組み ・協働事業に取り組む前の協働についての研修 ・単なる委託ではない「協働型委託」の確立</p> |
|--|---|--|--|